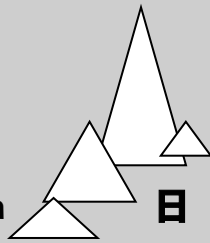


**N**outh **E**ast

**W**est

**S**outh



日本各地の話題

文責 小野盛光

## 金3 銀4 銅1

### 茶臼山トレ参加者の成果

全日本大会の2週間前の4月13日(日)東海地域を中心に約50名の参加者を得て、全日本大会をターゲットにトレーニング会を愛知県豊根村、長野県根羽村にまたがる愛知の最高峰茶臼山周辺の高原地帯で三河オリエンテリングクラブの声掛けで開催した。

茶臼山高原は南にスキーゲレンデがある萩太郎山、北に茶臼山が存在し、高原地帯には現在は使われていない放牧場や草原地帯などオープンエリアが広がる。標高1200m以上で、菅平高原には面積の点で劣るものの、気象条件など菅平に近似するトレインである。

参加者は自身が全日本大会で使用する縮尺の地図を使い、設定された3つのコースを走り、全日本大会の自身の課題を見出す努力をした。本番ではオープンエリアの地形読み、直進、小さい藪や岩、あるいは林の淵の特徴物に置かれると予想させるコントロールやオープン内の道などの見え方、気温、空気の濃さからくる呼吸、あるいは残雪の走り具合などを体験した。

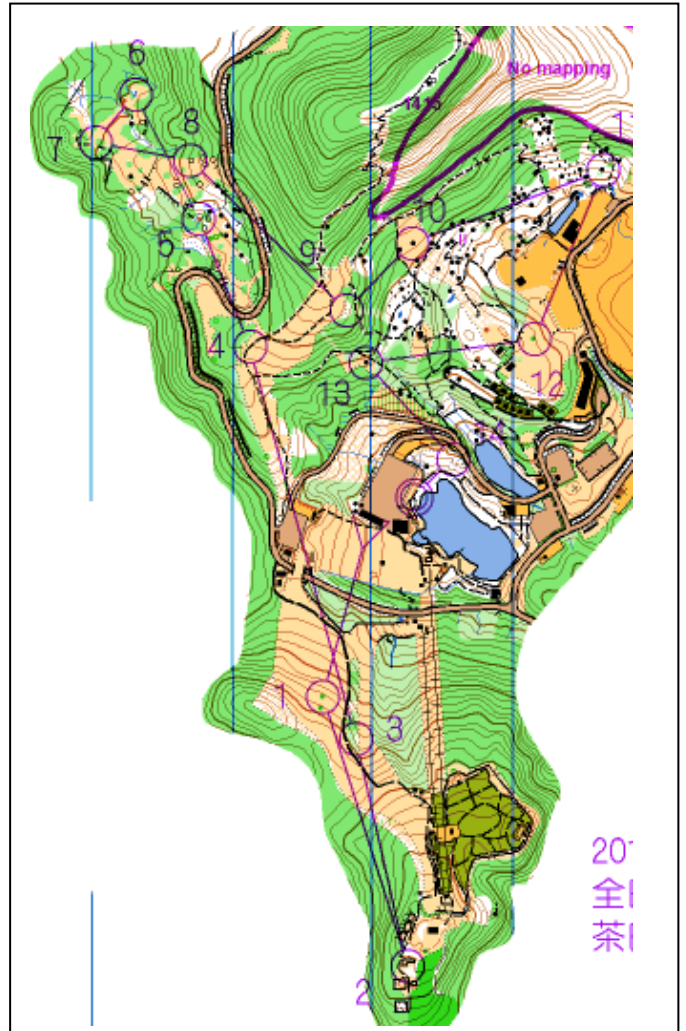
その結果、全日本大会ではM20Eで稲森剛さんが優勝したのをはじめ、W21Aの守屋舞香さん、M65Aの鹿野勘次さんが優勝、M20E長谷川望さん、M50A稲葉英雄さん、W65A鈴木幸子さん、M15A上田皓一朗さんが準優勝、M21Eの松澤俊行さんが3位に入った。

この茶臼山高原の地図は1984年に最初の作図がされ、89年に世界選手権に出場することになった稲葉英雄さんと深田幸子さんの壮行会が開催された。実に25年ぶり復活である。

まず下見に入ったのが2月7日。道路の積雪が心配だったので、気温の推移を見ながらこの日しかないとの判断で現地へ。道路には雪がなく、スキー場の方と軽く話をして、全日本大会の2週間前にはトレーニング会が開催可能と判断した。しかしその後東日本で多くの大会を中止に追い込んだ豪雪が三

河地方にも襲い、調査に入ることができず他の地域の調査をこなし、3月16日にやっと2度目の調査にはいったが、まだ雪は多く残っている上、スキー場には入ることができず、雪の少ない南向き斜面のGPSによるデータ取を行った。日を追って、徐々に雪も解け、3月末には調査とコース設定を完了した。

元図については地元行政には1万分の1すらなく、基盤地図情報から2万5千分の1図を取得し、主要道をはじめほとんどGPSによってデータを取得して作成した。



20' 全茶



雪の残るスキーゲレンデを走る参加者